

メディア芸術の国際的な拠点の整備に関する検討会「メディア芸術
の国際的な拠点の整備について（報告）」（平成21年4月）の概要

1. メディア芸術の現状と課題

- 現在、我が国には、マンガ、アニメ等メディア芸術の各分野ごとに作品の展示等を行う施設は存在するものの、メディア芸術のすべての分野を包括的に取り扱い、作品を常時展示するとともに、関連情報の集約・発信等を行う施設が存在しない。
- このため、国内外で高まるメディア芸術作品鑑賞の需要に^{こた}えることができず、また、我が国のメディア芸術の海外への発信が不十分となっている。
- このほか、メディア芸術の一層の振興を図る観点からは、メディア芸術作品の収集・保管及び発表の機会の拡充、人材育成の強化等が課題となっている。

2. メディア芸術の国際的な拠点の整備の必要性及び期待される効果

- 上記の課題に対応するためには、メディア芸術のすべての分野を包括的に取り扱い、作品の網羅的・体系的な展示、関連情報の集約・発信、作品の収集・保管、人材の育成等を総合的に行う「メディア芸術の国際的な拠点」の整備が必要である。
- 同拠点の整備により、我が国の文化のみならず、観光及び産業の振興も期待される。

3. メディア芸術の国際的な拠点の整備の基本構想

- 名 称：国立メディア芸術総合センター（仮称）
- 分 野：メディア芸術の全分野を取り扱う。映画については、フィルムセンターと緊密に連携・協力
- 機 能：メディア芸術作品の展示
メディア芸術作品その他資料の収集・保管
関連情報の収集・提供、調査研究、人材育成・普及啓発活動の実施
メディア芸術関連施設間の連携・協力体制の構築
- 設置場所：東京都内（東京臨海副都心（お台場）は好適地の一つ）
- 面積等：建物延べ床面積は約10,000㎡、土地面積は約2,500㎡、4～5階建て
- 年間目標来場者数：約60万人
- 運営方法：独立行政法人国立美術館が外部委託により運営
- その他：入場料等自己収入で、運営に必要な財源を^{まかな}うことが適当